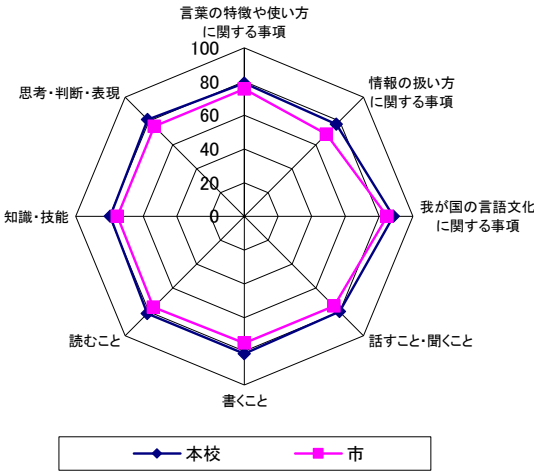


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.1	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	77.3	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.4	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	79.9	75.3	69.4
	書くこと	81.5	75.2	65.1
	読むこと	81.5	76.2	68.8
観点別	知識・技能	79.6	75.3	66.7
	思考・判断・表現	81.2	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は79.1%で市平均より3.5ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ●漢字を読む問題では一問だけ市平均と変わらないものもあり、全国平均を下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・普段読み慣れている、書き慣れている漢字については正答率が上がるが、普段使っていない漢字については馴染みが薄いか読めなくなったり書けなくなったりしていると考えられる。そのため、読書など身近な生活面で難解な漢字にも触れる機会を作っていきたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は77.3%で市平均より8.3ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ○特に「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」かを問う問題では、市平均を13.1ポイント上回っていた。	・情報に関する事項は、読む力と連動される。そのため、様々な文章に触れる必要がある。その中でも、重要な情報はどこか、発信者が伝えたいことや意図は何かを読み取る指導を行っていく必要がある。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は88.4%で市平均より3.7ポイント上回った。 ○問題は一題しかなかったが、現代語訳をもとに古典を読む力は身に付いている。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことなどは、1年生からの反復で定着してきた。一方で、「古文が苦手」という意識は払拭できていない。現代語訳をもとに、現代と通ずるものを照らし合わせながら、古文の指導を行っていきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は79.9%で市平均より4.6ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」かを問う問題では、市平均より9.4ポイント上回った。	・話し合い活動では、意見を出し合い活発に話すことができる。その一方で、自分の主張に対する根拠を順序立てて話すことはあまりできていない。自分の主張と根拠が一致しているのか、ただの感想になっていないかなど、吟味しながら話す指導を行いたい。
書くこと	平均正答率は81.5%で市平均より6.3ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ○「論理の展開を考えて、文章の構成を工夫している」かを問う問題では、市平均より9.2ポイント上回った。 ●「今後自分は、新しい科学技術とどのように向き合って生活していきたいと思うかを書く」問題では平均回答率が65.7%と同じ領域の問題でも一番低かった。	・普段から自分の考えをまとめる課題を行っているため、考えを書くことへの嫌悪感は低いと考えられる。また、条件に従って書く力もある。しかし、「科学技術」や「SDGs」、「情報に関すること」など一般化したテーマの作文となると、考えを述べるのにも時間が必要である。短時間でも考えを明確にして書く力を身に付けるためにも、普段から一般化した出来事やテーマについて考える指導を行いたい。
読むこと	平均正答率は81.5%で市平均より5.3ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ○「論理の展開の仕方を捉えている」かを問う問題では、市平均より6ポイント上回った。 ●「文章を読んで考えを広げたり深めたりしている」かを問う問題では平均回答率は77.9%と市平均とさほど差はなかった。	・文章を論理的に読むということは、言葉と言葉のつながりをいかに理解して読めているかということである。問いと答え、根拠と結論、反対の関係といった段落ごとの関係性を理解するよう指導したり、接続詞に注目して読む指導を行いたい。 ・文学的な文章では、情景描写が心情にも深く影響してくる。情景描写と心情がどうつながっていくか、照らし合わせながら読む指導を行いたい。